

2020.11.25

(素案)
(仮称)精 華 町 森 林 管 理 保 全 指 針
(せいかの^も^り森林の道しるべ)

(令和2年度策定)

京 都 府
精 華 町

目 次

第 1	はじめに	1
第 2	精華町の森林	2
1	精華町の森林	2
2	人工林等分布図	4
	(1) 森林管理の適切な推進	
	ア スギ・ヒノキ人工林	
	イ 広葉樹林・竹林	
	(2) 木材等資源の有効利用	
	(3) 企業・住民参加の森林づくり	
第 3	森林ゾーニング	6
1	里山減災ゾーン	7
	(1) 対象とする森林	
	(2) 森林の有する機能：山地災害防止機能/土壌保全機能	
	ア 望ましい森林の姿	
	イ 森林整備及び保全の基本方針	
	(3) 住民活動ゾーン「嶽山プロジェクト」(モデル地区)	
	ア 住民活動ゾーンとして、追加で発揮させる森林の有する機能	
	(ア) 望ましい森林の姿	
	(イ) 森林整備及び保全の基本指針	
	(ウ) 「嶽山プロジェクト」の活動	
2	里山文化景観ゾーン	9
	(1) 対象とする森林	
	(2) 森林の有する機能：保健・レクリエーション機能/文化機能	
	ア 望ましい森林の姿	
	イ 森林整備及び保全の基本方針	
	(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	

3 里山水辺ゾーン 1 1

- (1) 対象とする森林
- (2) 森林の有する機能：水源涵養機能/生物多様性機能/
保健・レクリエーション機能
 - ア 望ましい森林の姿
 - イ 森林整備及び保全の基本方針

4 里山再生ゾーン 1 2

- (1) 対象とする森林
- (2) 森林の有する機能：保健・レクリエーション機能/生物多様性機能
 - ア 望ましい森林の姿
 - イ 森林整備及び保全の基本方針
- (3) 住民活動ゾーン、体験学習の森林
 - ア 住民活動ゾーン・体験学習の森林「せいか里山の会」(モデル地区)
 - (ア)住民活動ゾーンとして、発揮させる森林の有する機能
 - (イ) 望ましい森林の姿
 - (ウ) 森林整備及び保全の基本指針
 - (エ) 植生遷移観察の森林
 - (オ) 「せいか里山の会」の活動
 - イ 体験学習の森林
- (4) 獣害対策区域
 - ア 対象とする森林
 - イ 鳥獣害対策の方法

【参考資料】

1 令和元年度京都府立大学ACTR 成果	1 5
2 令和元年度精華町人工林調査結果	1 6
3 令和2年度精華町人工林詳細調査結果	1 7
4 行政データでみる精華町の森の姿(平成30年度京都府立大学ACTR成果).....	1 9
5 森林環境譲与税に関する森林管理保全アンケート結果	2 4
6 精華町竹等粉碎機取扱要領	3 2
7 精華町林地台帳取扱要綱	3 7

第1 はじめに

森林管理保全指針の趣旨

●背景・目的

精華町は、京都府の南部に位置し、京阪神都市圏の都市近郊地域として、けいはんな学研都市(関西学術研究都市)の中心地として都市建設が進められ、地形的には西部と南部になだらかな里山の丘陵が広がっています。

精華町内の森林は、地域住民の生活に密着した「里山」と住宅地に隣接した残地森林から形成されています。**民有林*1**面積は約323haでその内**人工林*2**面積は約6.5haで2%と少なく、かつこれが点在しており、林業経営には適しておらず、林業経営体や森林組合はない状態です。また、精華町の森林には保安林の指定はありません。

昭和30年頃までは、「里山」は薪等のエネルギー資源であり、松茸や竹の子など山の恵みが豊富でありました。

しかし、今はマツ枯れ・ナラ枯れによる放置森林や竹林が多くなり、スギ・ヒノキの人工林や広葉樹林にタケの侵入が多く見られます。

そうした中、平成31年4月から新たな森林経営管理制度・森林環境譲与税がスタートし、森林行政における市町村の役割が増大し、京都府、精華町、森林所有者、森林ボランティアが連携・協調して森林整備、管理を進めることが必要となりました。

精華町に残された「里山と残地森林」をどのように整備・管理し、関西文化学術研究都市のテーマの一つである「人と自然との共生」を図るかは、防災や景観の問題だけでなく、持続可能な社会を築く上での大きな課題となっています。

そこで、**京都府立大学地域貢献型特別研究(ACTR)制度*3**を活用して、精華町の森林を調査し、その結果に基づいて**森林ゾーニング*4**を行い、①里山減災ゾーン、②里山文化景観ゾーン、③里山水辺ゾーン、④里山再生ゾーンに町内の森林を分割しました。これを基に竹林の拡大防止、里山整備・里山資源の利用、**生物多様性*5**の保全の基本的な方向となる「精華町森林管理保全指針」《せいかの森林の道しるべ》を策定しました。

●対象とする森林

精華町森林整備計画(淀川上流地域森林計画)対象民有林(私有林+精華町有林) 320.68haを対象としています。(「第2 精華町の森林」を参照)

*1 民有林

国が所有する森林を「国有林」と呼びます。それ以外の、都道府県や市町村の所有する「公有林」と個人や企業が所有する「私有林」を併せて「民有林」と呼びます。

*2 人工林

木材の生産のため、人の手で植栽・管理等が行われている森林を指します。

*3 京都府立大学地域貢献型特別研究(ACTR)制度

京都府立大学で地域課題の解決のため毎年度実施されている事業。精華町においても、森林に関する課題解決のため、平成30年度から当該事業を活用し、京都府立大学の協力を得て森林対策に取り組んできました。

*4 森林ゾーニング

森林を様々な条件に基づいて、いくつかの区域に分割していくことを指します。

*5 生物多様性

全ての生き物に違いがあり、それらが互いに影響を及ぼしあうことを指します。生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性があります。

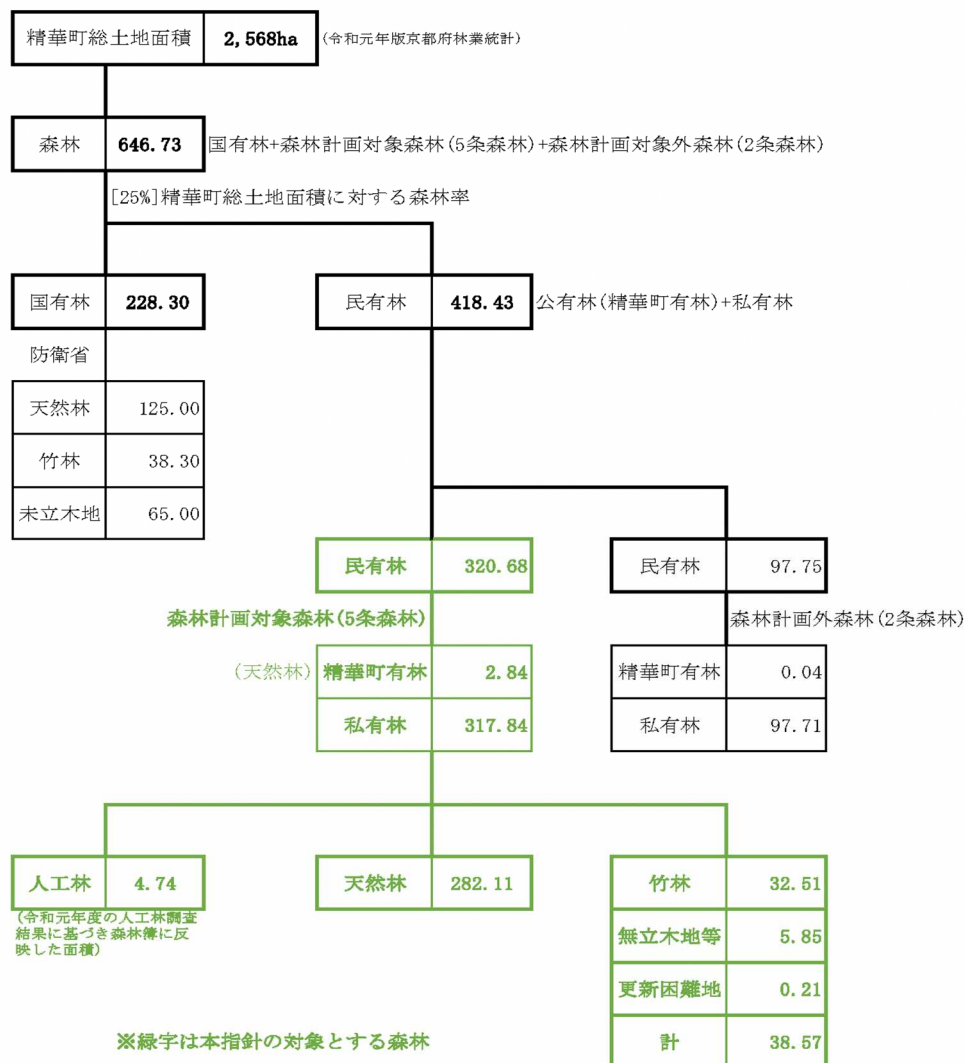
第2 精華町の森林

1 精華町の森林

精華町の森林面積は646.73 haで町の総土地面積2,568haの25%を占めています。森林は防衛省所管の国有林が35%を占め、民有林[森林法第2条](公有林+私有林)は65%となっています。この指針の対象とする森林は民有林の内、森林計画対象森林(森林法第5条*1)の民有林約323haを対象としています。

【図1-1、図1-2参照】

図1-1 精華町の森林面積



※森林環境譲与税譲与基準となる私有林人工林面積

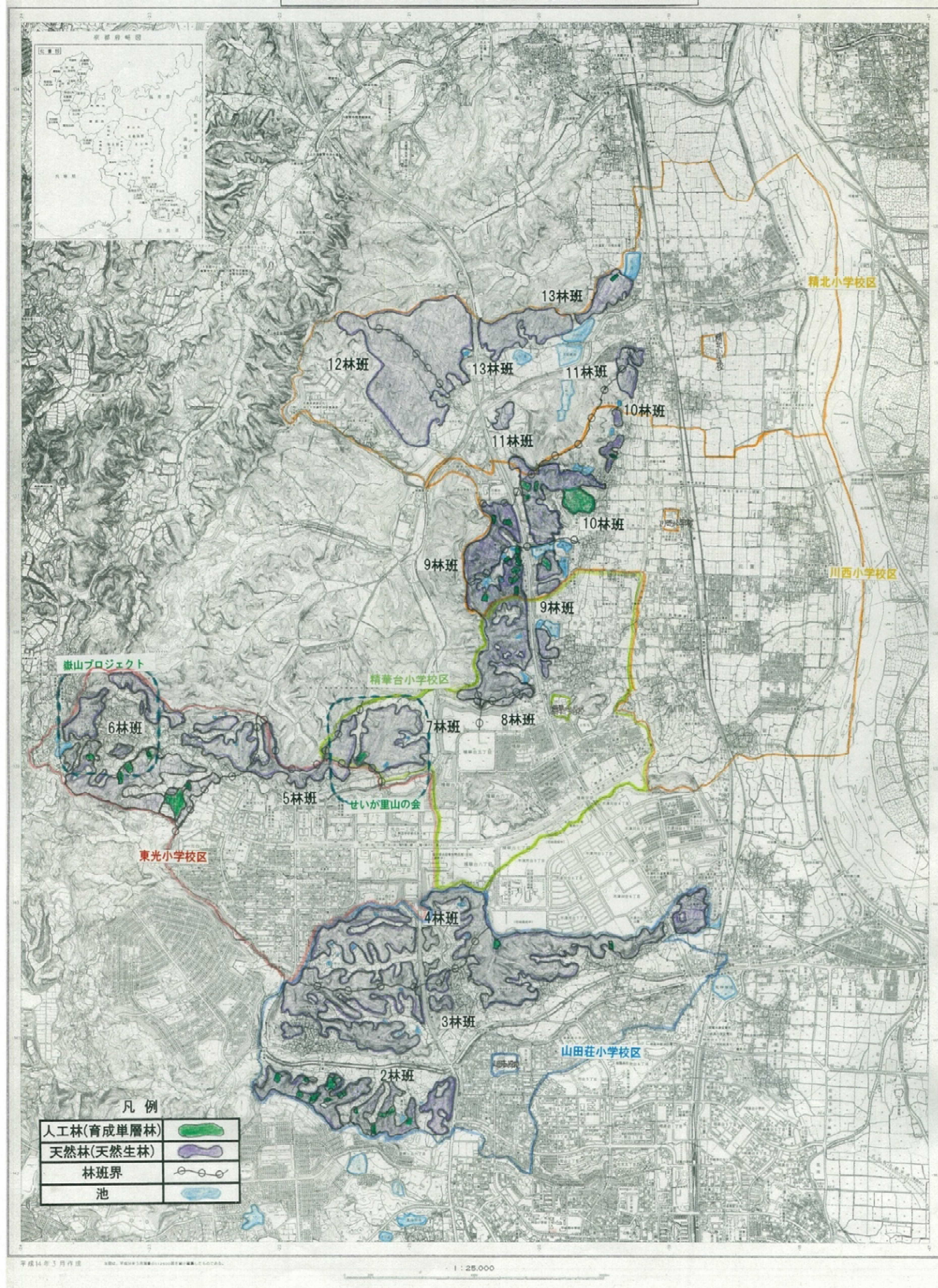
- ・令和元年度～令和3年度 **6.50ha** (2018年度に公表された森林資源現況調査の私有林人工林面積)
- ・令和4年度～令和8年度 **5.79ha** (2020年度に公表される2020農林業センサスの私有林人工林面積)

5.79haは令和元年度京都府森林資源情報制度向上業務で航空写真解析により算出された面積で、令和2年度に公表される2020農林業センサスに反映され、森林簿には令和3年度に反映される。

*1 森林法第5条

森林法第5条において、都道府県知事は民有林につき地域森林計画を立てることとされている。

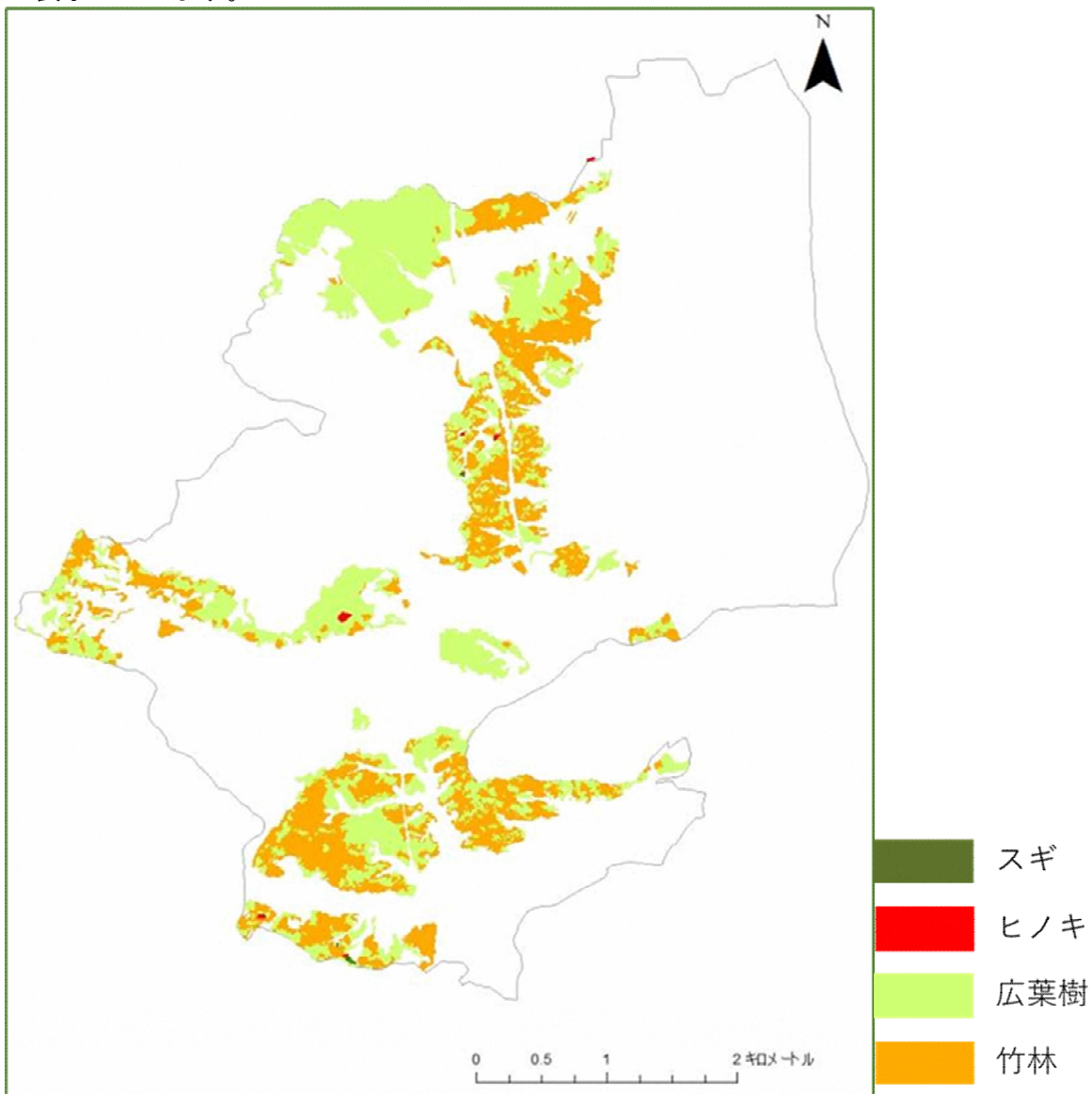
京都府精華町森林(民有林)位置図



※この地図は暫定版で、後日差し替える

2 人工林等分布図

人工林等分布図は320.68haの森林を**林相*1**で区域を表示した地図です。スギ・ヒノキの人工林は令和元年度の人工林調査の結果、比較的スギ・ヒノキがまとまって生育している箇所を表示しています。広葉樹林・竹林は航空写真から目視で判読された広葉樹林・竹林を表示しています。



(1) 森林管理の適切な推進

ア スギ・ヒノキ人工林

令和元年度 精華町に所在するスギ・ヒノキの人工林61箇所で開催した調査の結果、殆どの箇所で広葉樹、タケが侵入し、植栽木が単木的に残っている状況でした。その中でスギ・ヒノキが比較的まとまって生育している10箇所について、令和2年度に詳細調査(標準地調査)を実施しました。

調査結果は【P.17 参考資料3】の通り、人工林の面積が少なく、作業道もない状態のうえ、少ない人工林についても町内各所に点在していることから、林業経営を成り立たせるのは困難と判断されています。精華町に生育する貴重な人工林について、林業経営は困難ではありますが、次世代を担う子供達に森林環境教育の一環として、産業としての「林業」を体感・体験できるモデル林として、整備が図られるよう仕組みの構築を図ります。

*1 林相

木の種類や生え方による森林の様相のこと

イ 広葉樹林・竹林

広葉樹林や竹林においては、燃料革命以降資源を利用することが殆どなくなりました。

1980年代はアカマツ林が多くを占めていましたが、1990年代後半に**マツの材線虫病*1**によるマツ枯れがはじまり、そこに竹林も拡大してきて、現在の広葉樹林・竹林になりました。広葉樹林ではナラ枯れの被害で枯損木が発生しています。これらのうち、地域ぐるみで行う危険木の撤去などの取組みを支援します。

また、放置された竹林は地下茎により周囲に拡大します。広がった竹林が隣接する人工林や広葉樹林にも侵入し元々あった樹木を衰退させます。ナラ枯れの枯損木、風倒木等の放置林及び放置竹林は里山の景観を著しく損ねていますので、枯損木・風倒木の処理、竹林の拡大を留める対策を推進していきます。

【P.19 参考資料4】

(2) 木材等資源の有効利用

人工林、広葉樹林・竹林を維持管理する上で発生する木竹材等は、森林資源の有効活用を図ります。「森林環境譲与税に関する森林管理保全アンケート」(以下「アンケート」という。)の結果、木質資源に係る活用意識では、49%の人が「利用したくない」とする一方43%の人が「利用したい」と回答されていました。

【P.24 参考資料5】

立地条件、マンパワー条件等が整った森林については、シイタケ原木、木材チップ、薪、竹炭、竹チップ、竹細工等々、経済的に利用することも推進します。

精華町では竹等粉碎機を森林ボランティア団体等に無料で貸し出ししています。粉碎材は、肥料や雑草対策に活用することができます。

【P.32 参考資料6】

災害時の避難箇所となるような里山には昔ながらの木質資源が利用できるように、普段はボランティア活動の一環として利用できる、ピザ窯を造ったり、炭で暖が取れるようにするといった準備をして、子供たちの森林環境教育として、火の扱い方を教えることも重要であり、設備を整えることを推進します。

(3) 企業・住民参加の森林(もり)づくり

精華町は学研都市として、多くの企業のような様々な研究所があります。公益社団法人京都モデルフォレスト協会は、荒廃が進んでいる森林・竹林に関して、個人や企業、ボランティア団体などに幅広く参画戴き、力を合わせて京都の森を守り育てる運動を行っておられます。精華町においても、人工林を含めた枯損木・風倒木の放置林、放置竹林に関して、京都モデルフォレスト協会と連携して、企業、ボランティア団体、個人に参画戴いて、森林(もり)づくりを推進していきます。

企業・住民参加の森林(もり)づくりを実行するには、手入れをする山林の所有者を特定し、意向を確認する必要があります。現在の山林所有者の特定のため、「林地台帳」の整備に取り組めます。

【P.37 参考資料

7】

参画戴ける企業・ボランティア団体・個人を広く募集し、応募のあった企業等の意向を確認した上で、対象の山林所有者の意向調査を実施します。

また、森林ボランティア団体等の活動支援により、森林づくりの担い手育成を支援します。

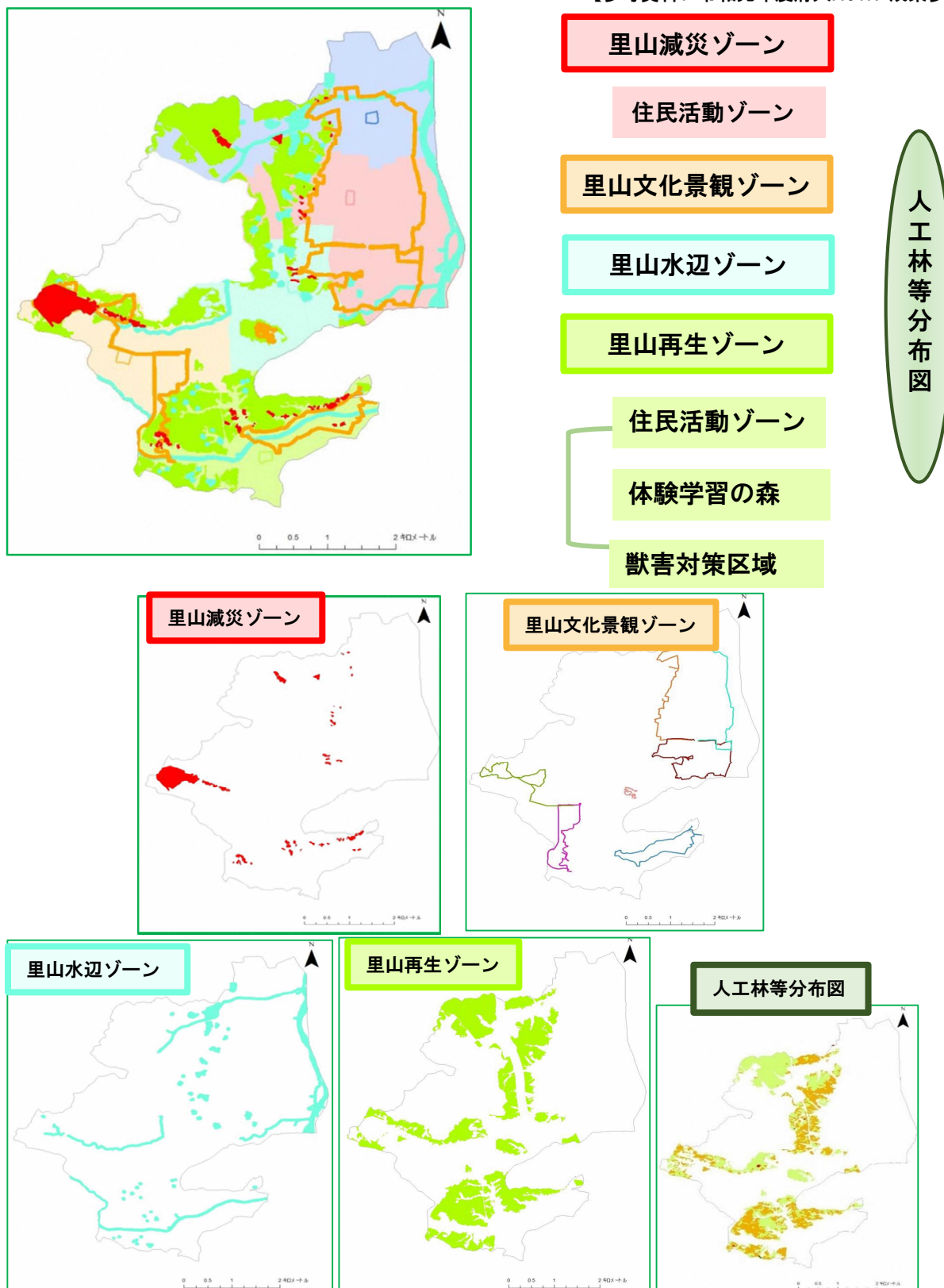
*1 マツの材線虫病

マツノザイセンチュウという線虫の一種によりマツに発生する感染症であり、マツ枯れを引き起こす要因となります。

第3 森林ゾーニング

精華町の将来の森林のあるべき姿を分かりやすく示すために、この指針のキーワードとなる4つのゾーン[里山減災ゾーン][里山文化景観ゾーン][里山水辺ゾーン][里山再生ゾーン]を設定しました。

【参考資料1 令和元年度府大ACTR 成果参照】



※森林ゾーニングとは森林を様々な条件に基づいていくつかの区域に分割することをいいます。精華町においては、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）の協力を得て、GISによる解析や衛星リモートセンシング画像の解析等を踏まえ森林ゾーニングを作成しました。

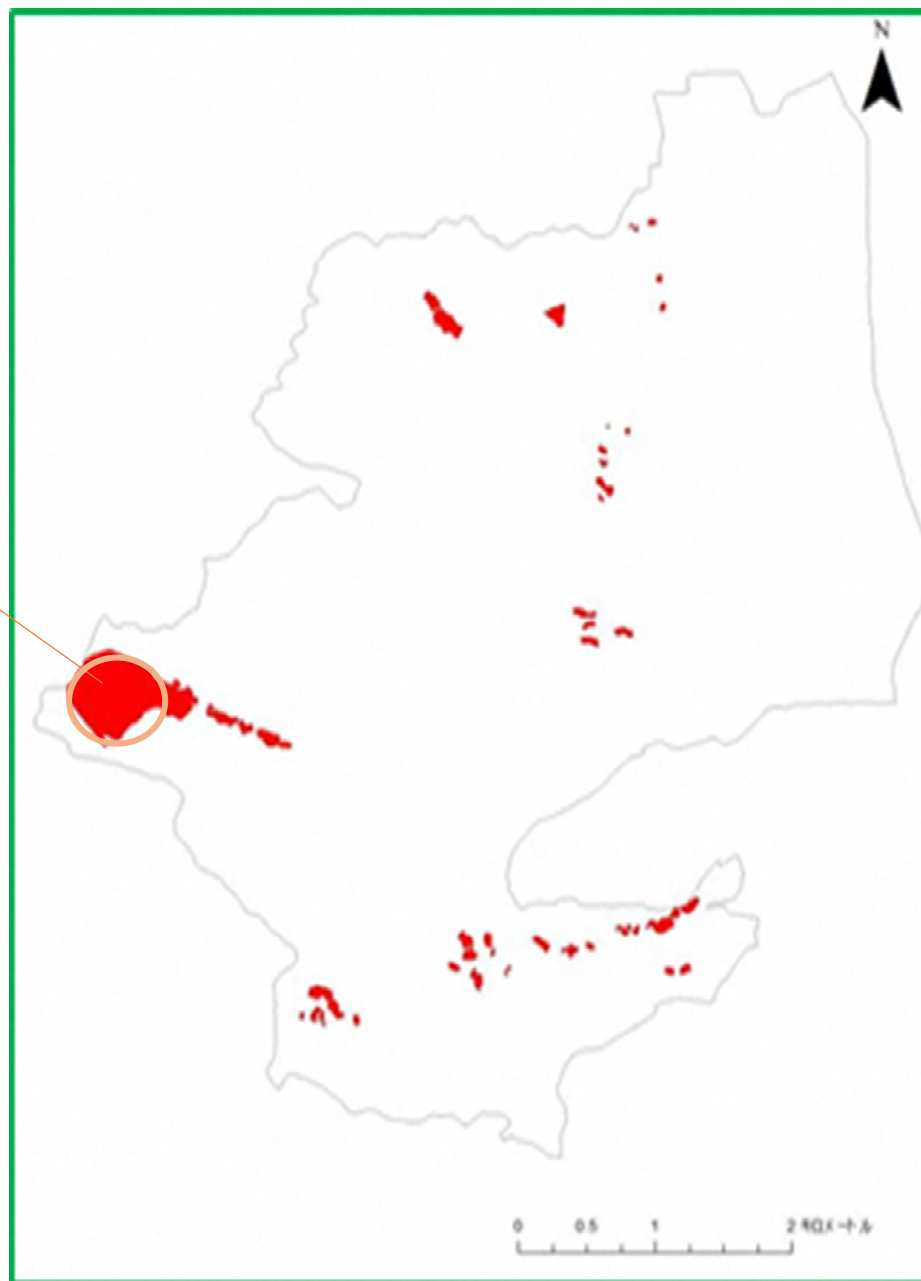
1 里山減災ゾーン

(1) 対象とする森林

精華町防災マップで土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている森林を対象として、赤色で図示しています。また、林野庁所管の山地災害危険地区に指定されている森林も対象として、黄色で図示しています。

※この地図は暫定版で、後日差し替える

〈住民活動ゾーン〉
〔嶽山プロジェクト〕



(2) 森林の有する機能：山地災害防止機能/土壌保全機能

ア 望ましい森林の姿

下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し、土壌を保持する能力に優れた森林を目標とします。

イ 森林整備及び保全の基本方針

地形、地質等の条件を考慮した上で、林地の裸地*1化の縮小及び回避を図る施業を推進します

*1 裸地

草木が生えておらず、岩や土がむき出しになっている土地のこと

(3) 住民活動ゾーン「嶽山プロジェクト」(モデル地区)

ア 住民活動ゾーンとして、追加で発揮させる森林の有する機能

《保健・レクリエーション機能/文化機能》

(ア) 望ましい森林の姿

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民の憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林を目標とします。

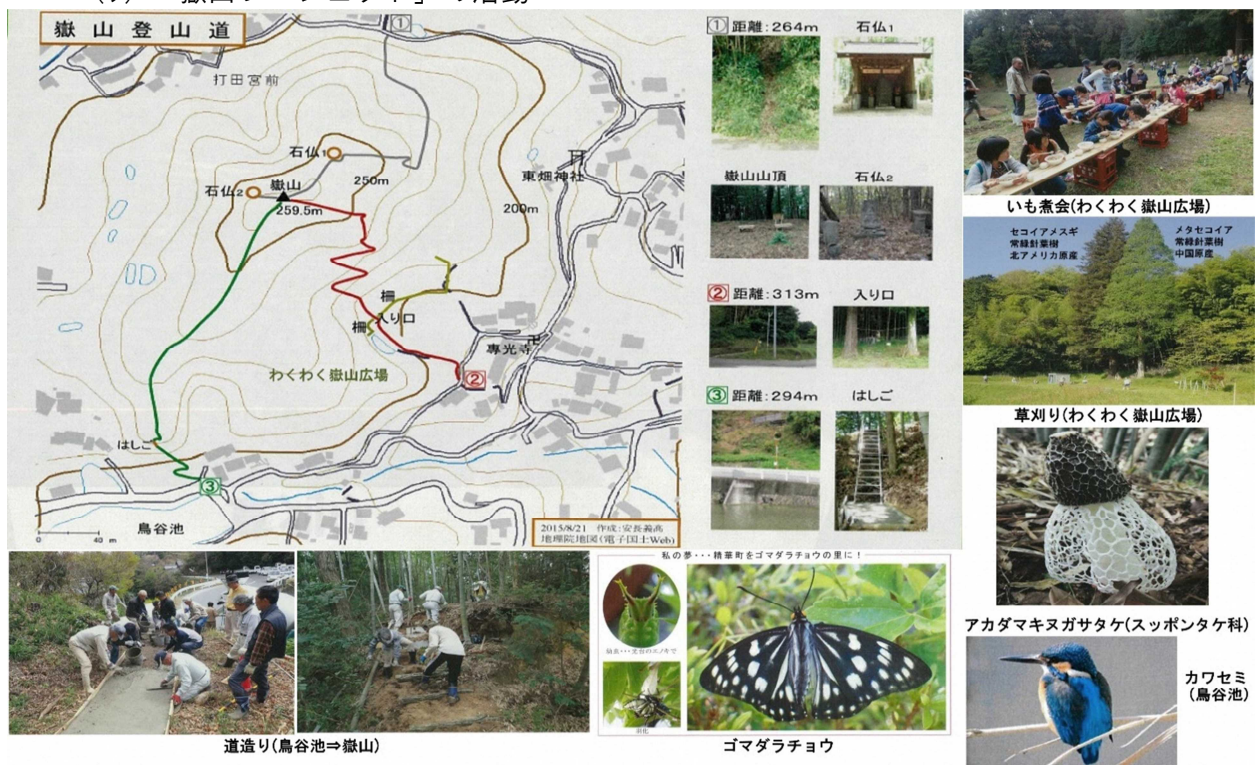
また、自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されている森林を目標とします。

(イ) 森林整備及び保全の基本指針

町民に憩いと学びの場を提供する観点から、立地条件や町民のニーズ等に応じて広葉樹・針葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進します。

美的景観の維持・形成に配慮した森林施業を推進します。

(ウ) 「嶽山プロジェクト」の活動



①森林の所有形態及び林種、小学校区

私有林(個人所有)の天然林、竹林、東光小学校区

②活動団体と活動内容

・「NPO法人みんなの元気塾(嶽山プロジェクト)」

みんなの元気塾を拠点として心の通い合う地域づくりを実現するために、地域のふれあいの場所として活動し、共生できる地域社会の創造に寄与することを目的に設立されました。嶽山プロジェクトでは古くから修験者の修行場となるなど歴史的に貴重な場として地元で守られてきた嶽山(標高260m・精華町最高峰)において、放置竹林やナラ枯れなどによる枯死木の伐採、倒木の処理、散策道整備等を毎月1回〔毎月10名程度参加〕定例活動が行われ、活動記録が地域自治会に共有されています。

当該エリアは全て私有地(個人所有)であり、土地所有者と協定が結ばれています。

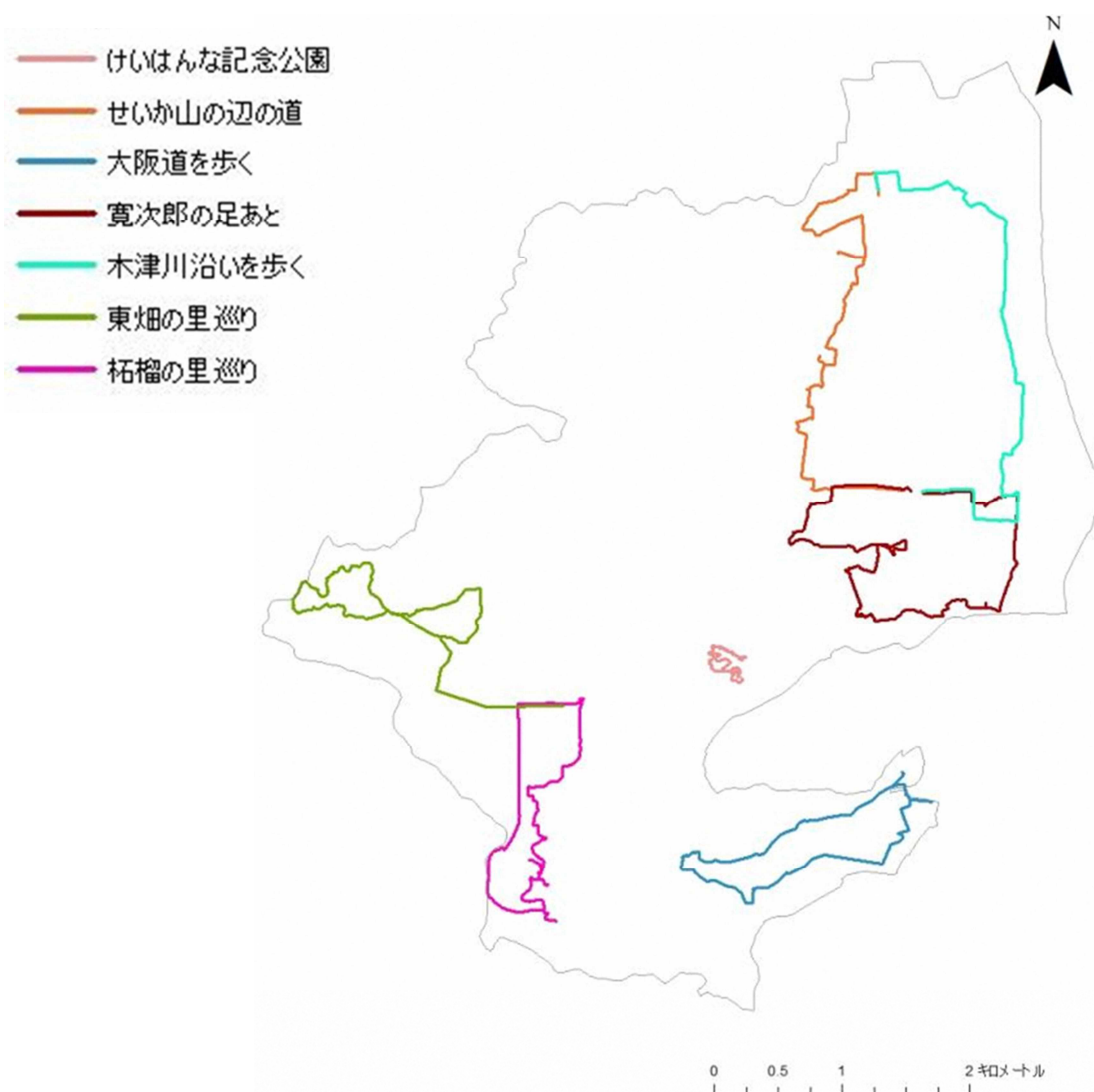
③森林環境譲与税の用途として、スギ人工林に侵入している竹林の駆除に関するモデル地区として位置づけ、竹林駆除と間伐をセットにした見本林にします。あわせて

手入れの行き届いたスギ林が醸し出す**森厳性*1**を発揮させることによって嶽山の歴史的文化的価値との調和を目指します。また、手入れが行き届いたスギ人工林における昔ながらの植物や昆虫を復活させ、環境教育の場として整備につなげるため、活動を支援します。そのため、このモデル地区のように地域と関わりながら、次世代へ引き継いでいくための団体を支援します。

2 里山文化景観ゾーン

(1) 対象とする森林

森林公園等の施設を伴う森林など、町民の保健・教育的利用等に適した森林及び史跡、名称等の所在する森林や、これらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林を対象として、**ふるさと案内人*2**のルートに20mの幅を持たせた区域に設定しました。



*1 森厳

整然としていて厳かな様子のこと

*2 ふるさと案内人

ふるさと案内人の会は、精華町内の自然や文化財を訪ね、その素晴らしさや謎を探索・案内する会です

(2) 森林の有する機能：**保健・レクリエーション機能/文化機能**

ア 望ましい森林の姿

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民の憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林を目標とします。

また、自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されている森林を目標とします。

イ 森林整備及び保全の基本指針

町民に憩いと学びの場を提供する観点から、立地条件や町民のニーズ等に応じて広葉樹・針葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進します。

環境学習等で手作りした樹木名板等を設置するなど、学びやふれあいの場としても活用します。

また、美的景観の維持・形成に配慮した森林施業を推進します。

(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業

京都府では、豊かな森を育てる府民税活用事業の一環として、地域の皆様に親しまれ、地域文化と深く結びついて大切に守られてきた森林や樹木を将来の府民に引き継いでいくための活動を支援するため、平成29年度かに「京の森林文化を守り育てる支援事業」を創設されました。

精華町では次の各団体が支援を受けて取組んでおられます。

《平成29年度》

【1】「社寺の森」武内神社の森の再生プロジェクト

『武内神社の歴史的遺産と一体となって保持されてきた宮山の保全』

[北稻八間むらづくり推進委員会]

【2】「文化・伝統の森」わくわく嶽山(だけやま)プロジェクト

『古くから修験者の行場として知られ、地域の子供たちが山に登り森を体験する「山がえり」という風習のある嶽山の保全』

[特定非営利活動法人みんなの元気塾]

《令和2年度》

【1】「社寺の森」鞍岡の森を守り育てる支援事業

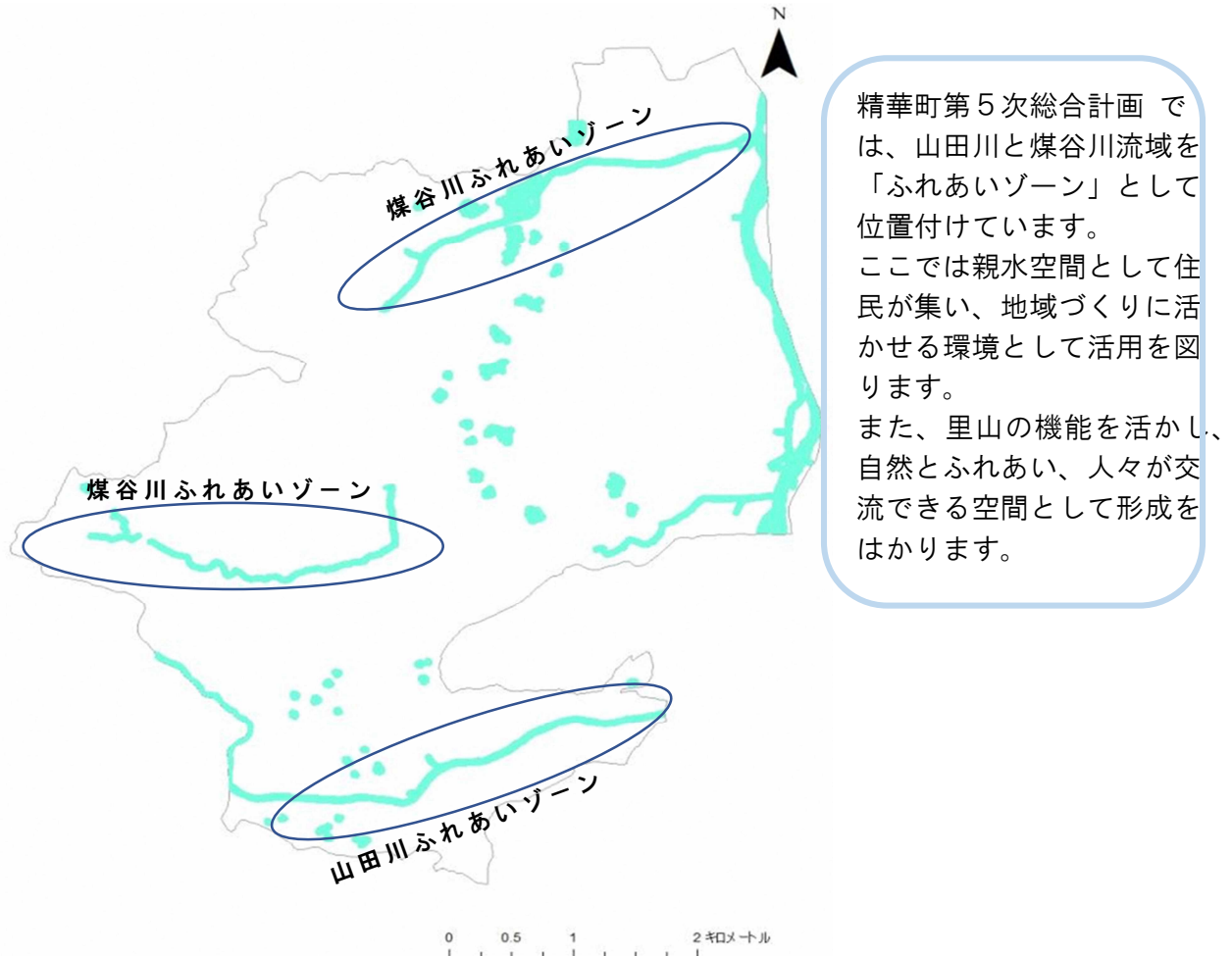
『危険木の伐採等による、歴史的遺産としての鞍岡神社の保全』

[鞍岡の森を守り育てる会]

3 里山水辺ゾーン

(1) 対象とする森林

地域の用水源として重要なため池、湧水池、溪流等の周辺に存する森林並びに河川の上中流の周辺に存する森林を対象として、都市計画図の情報から、ため池の重要な箇所のみ抽出し、河川もため池と合わせて水域として、30mの幅を持たせて抽出した区域に設定しました。



(2) 森林の有する機能：水源涵養機能/生物多様性機能/保健・レクリエーション機能

ア 望ましい森林の姿

下層植生と共に樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸水・保水能力の高い森林土壌を有する森林を目標とします。加えて陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する森林(溪畔林*1等)で、身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民に憩いと学びの場を提供している森林を目標とします。

なお、自然とのふれあいの場である、ため池や河川は、安全対策が施された空間を目標とします。

イ 森林整備及び保全の基本方針

良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育及び除・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を推進するとともに、生物多様性保全機能の維持増進を図る森林として保全していきます。

加えて、町民に憩いと学びの場を提供する観点から、立地条件や町民のニーズ等に応じ針葉樹・広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進します。

*1 溪畔林

河川周辺の森林のうち、上流の狭い谷底や斜面にあるものを指します。

4 里山再生ゾーン

(1) 対象とする森林

住民活動で森林等の整備が行われ、町民の保健・教育的利用等に適した森林を対象に、精華町の森林域から高速道路周辺の法面(道路両側100m幅)と里山減災ゾーンと重なる場所を除外して設定しました。

(2) 森林の有する機能：保健・レクリエーション機能/生物多様性機能

ア 望ましい森林の姿

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民に憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林を目標とします。また、場所により、その土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置された森林を目標とします。

イ 森林整備及び保全の基本方針

町民に憩いと学びの場を提供する観点から、立地条件や町民のニーズ等に応じて針葉樹・広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進します。

また、生物多様性保全機能の維持増進を図る森林として保全していきます。

(3) 住民活動ゾーン、体験学習の森林

ア 住民活動ゾーン・体験学習の森林「せいか里山の会」(モデル地区)

(ア) 住民活動ゾーンとして、発揮させる森林の有する機能

《保健・レクリエーション機能/生物多様性機能/水源涵養機能》

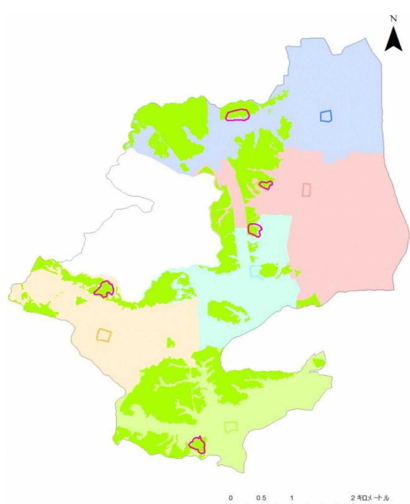
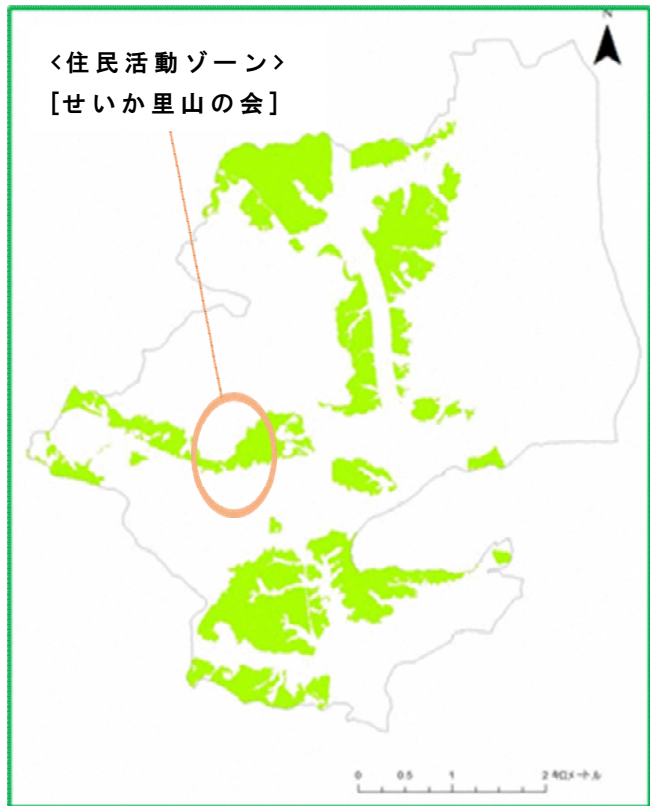
(イ) 望ましい森林の姿

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民の憩いと学びの場を提供している森林であり、加えて陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する森林(溪畔林等)であって、必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林を目標とします。

また、場所により、その土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置された森林を目標とします。

(ウ) 森林整備及び保全の基本指針

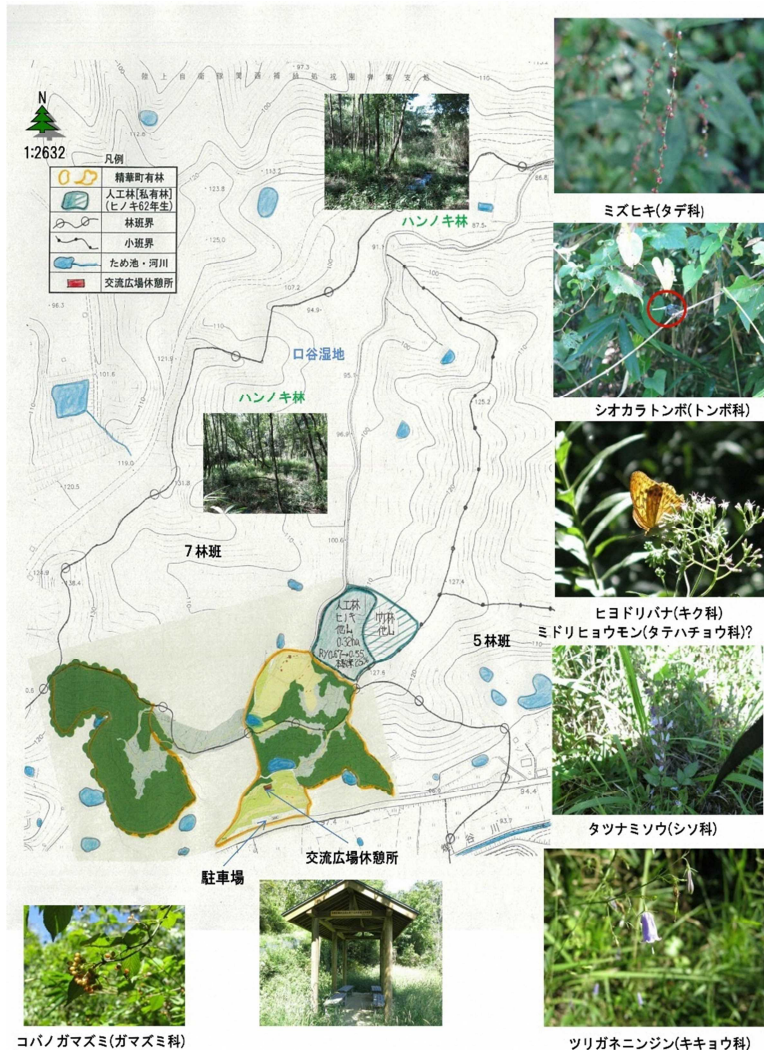
町民に憩いの場を提供する観点から、立地条件や町民のニーズ等に応じて広葉樹・針葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進します。また、生物多様性保全機能の維持増進を図る森林として保全していきます。



(エ) 植生遷移*1観察の森林

口谷湿地は元々は水田であったところですが、水田として使われなくなったことから本来の自然の姿に戻る途中の植生を示しています。水はけが悪い部分は湿地となっていますが、徐々に陸地化が進んでいきます。ハンノキ林はそうした植生遷移の途中段階の植生の一つです。ハンノキ林の独特の林相には心に残る美しさがあり、景観として保全の対象になりますが、非常に長い目で見ますと陸地化に伴い他の植生が徐々に侵入してきますので、長期にわたる植生遷移が観察できる森林として位置づけることができます。

(オ) 「せいか里山の会」の活動



①森林の所有形態及び林種、

小学校区

精華町有林の天然林、私有林
(個人所有)の天然林。

私有林(企業所有)の人工林が隣接する。精華台小学校区、東光小学校区

②活動団体と活動内容

平成19年度の「里山づくりワークショップ」、平成20年度の「精華里山づくり準備会」を踏まえ平成21年4月に「せいか里山の会」を設立し、住民と行政との協働による里山保全モデル事業として着手された。展望台づくり、ナラ枯れの処理・予防(カシノナガキクイムシ捕獲トラップの設置)、シイタケほだ木づくり・菌打ち、山菜探し、伐採木でベンチづくり、洛いも等の植付・手入れ・収穫等を毎月1回〔毎月18名(内職員8名)程度参加〕定例活動を行っています。

③森林環境譲与税の使途として、

この区域内にあるヒノキ人工林

を、環境教育における人工林の見本林として整備します。適切な間伐がなされ下層植生が豊かな模範林と、間伐が手遅れになり暗くなって下層植生も生えていない放置林を対比して観察できるようにします。また、間伐したヒノキ材を現地でチェーンソー製材機などを使って板にし、その板を隣接する口谷湿地の木道に利活用するなど、木材の生産から加工、利用までが学べる環境教育ゾーンに整備します。

イ 体験学習の森林

各小学校区に一か所設置を推進します。

(4) 獣害対策区域

ア 対象とする森林

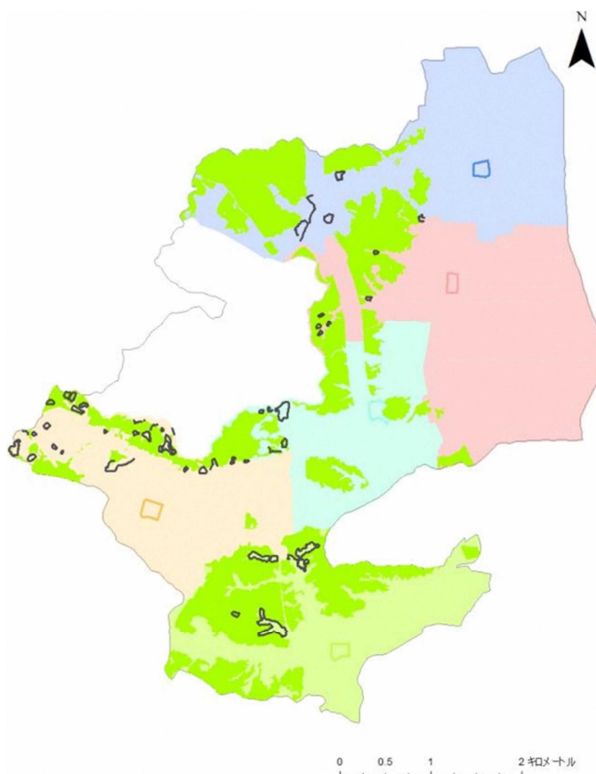
イノシシ防護柵設置個所周辺の森林及び貴重な動植物が生息・生育している森林を対象とします。

*1 植生遷移

自然の植生が年月とともに次第に変化する様子のこと

イ 鳥獣害対策の方法

- ①イノシシによる農作物被害は大きな問題となっており、その上農地畦畔や法面の掘り起こし、水路の破壊などの農業生産基盤への被害も発生しています。その防止に向け、捕獲や防護柵の設置のみならず、棲み分けのための生息環境整備(広葉樹植栽、針広混交林化*1)を進めるなど、将来的に良好な関係が図られるように推進していきます。
- ②ニホンジカについては、生息の確認はまだありませんが、目撃情報、足跡情報が出てきており、造林木、農作物の被害について情報収集を行います。
- ③精華町にはニホンジカの食害を受けずに残っている貴重な植物が確認され、関西においても、シカの食害を受けていない点で重要な場所と言えます。そこで、この指針のモデル林となっています、「せいか里山の会」の活動地及び周辺の森林において、ニホンジカの生息確認を行うとともに、防鹿柵の設置を検討します。



*1 針広混交林

針葉樹と広葉樹が混じりあった森林のこと

1 令和元年度京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR） 成果

精華町における森林ゾーニングと森林管理保全指針の作成

京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 長島啓子・武田征士・神代圭輔・浅田みなみ
 京都府立大学 京都地域未来創造センター 長澤淳一
 京都先端科学大学 田中和博
 精華町役場 塚田 寛 岩崎智代 上村邦雄 中本沙也加

課題 森林経営管理制度（2019年度スタート）

所有者が管理できず、林業経営にゆだねられない森林を市町村が代わりに管理する制度が盛り込まれる

「精華町のように人工林が少なく、林業経営できる森林が少ない市町村は、どう対応をしたらよいか??」

ねらい

広葉樹林も含めた森林の管理保全指針を作成するため、森林ゾーニング（案）を作成する
 ⇒同様の課題をもつ他の市町村のモデル事例にもなる

目的

- 1) 調査里山自然度調査および生物多様性調査（Stroly map の作成）
- 2) 森林ゾーニング（案）の作成

1) 調査里山自然度調査および生物多様性調査

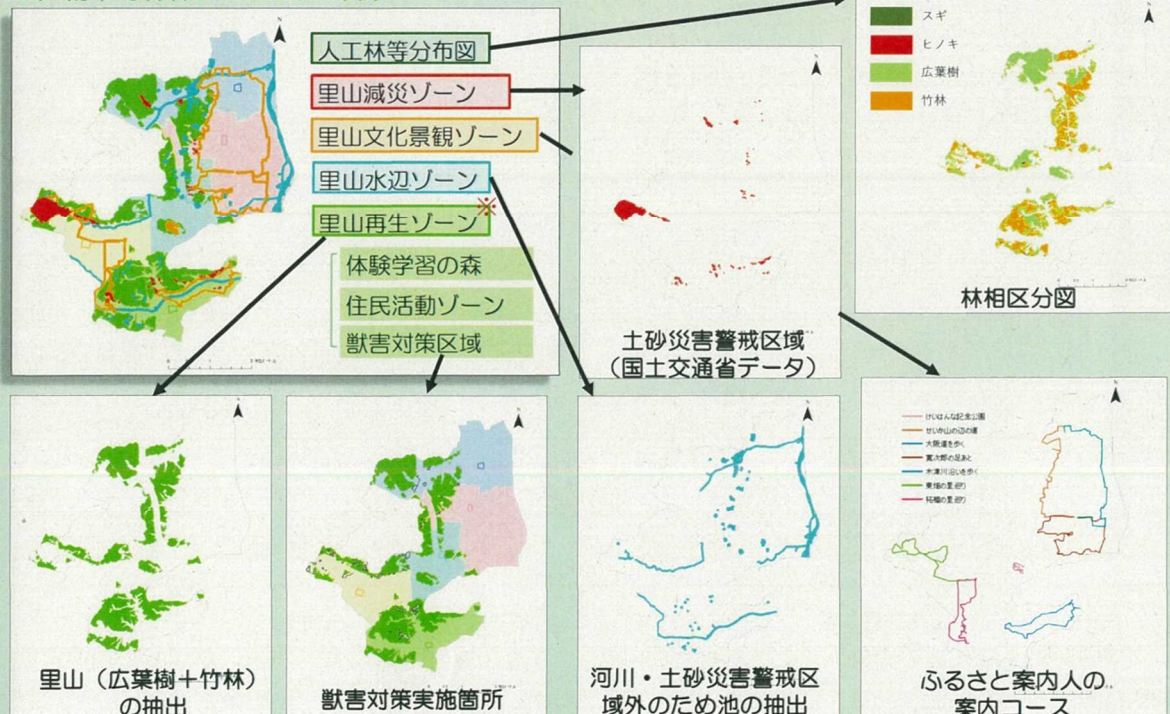
- ・東畑において季節毎の植物を示したStroly Mapを作成
- ・精華町内の湿地の植物調査で、合計153種確認
他の都道府県で絶滅が危惧されている種もあり、
精華町の豊かな自然を確認できた。

精華町東畑植物マップ



←東畑 Stroly Map

2) 精華町森林ゾーニング（案）



※里山再生ゾーン：竹林拡大防正策や広葉樹資源の利用促進を通し里山の再生を行うゾーン。
 体験学習の森や住民活動ゾーンのモデル地区にて具体策の検討を行う予定。

2 令和元年度精華町人工林調査結果

令和元年度 精華町人工林調査箇所一覧表

調査箇所NO.	林班	小班	大字名漢字	大字名カナ	小字名漢字	小字名カナ	地番	樹種CD	林齢	面積	ha当蓄積量	蓄積量m3	備 考
1		は	柘榴	ザクロ	徳所	トクショ	20	ヒノキ	85	0.05	224	11	全域に竹と雑木が侵入し、ヒノキはほとんど残っていない
2			柘榴	ザクロ	徳所	トクショ	71	ヒノキ	68	0.11	218	23	全域に竹と雑木が侵入し、ヒノキは数本しか残っていない
3		に	柘榴	ザクロ	中七条	ナカナナジヨウ	6	ヒノキ	60	0.52	203	105	東端A区域は雑木が侵入しスギがほとんどない。中央部B区域はスギ林に替わっている。西端C区域はヒノキが残っている
4			柘榴	ザクロ	中七条	ナカナナジヨウ	113	ヒノキ	56	0.02	203	4	全域に雑木が侵入し、ヒノキは残っていない
5			柘榴	ザクロ	中七条	ナカナナジヨウ	114	ヒノキ	56	0.09	203	18	全域に雑木が侵入し、上部A区域は一部スギ。下部区域はヒノキが数本残
6			柘榴	ザクロ	七条	ヒツチヨウ	126	スギ	60	0.04	287	11	スギが全面に残っている。下部区域(区域外?)のみ竹林になっている
7		ほ	柘榴	ザクロ	七条	ヒツチヨウ	137	スギ	100	0.03	300	9	全域に竹が侵入しておりスギは何本も残っている
8			柘榴	ザクロ	七条	ヒツチヨウ	140	スギ	100	0.02	300	6	全域に竹が侵入している。上部に雑木が残っている
9	002		柘榴	ザクロ	品ヶ谷	シナガタニ	46-2	ヒノキ	57	0.08	203	16	全域に竹が侵入しており、下部に一部ヒノキが残存している
10			柘榴	ザクロ	品ヶ谷	シナガタニ	49	スギ	60	0.12	287	34	全域に雑木と竹が侵入している。スギは残っていない
11		へ	柘榴	ザクロ	品ヶ谷	シナガタニ	54	スギ	68	0.01	297	2	下部に竹林が侵入し、上部には雑木が侵入。スギ・ヒノキなし
12			柘榴	ザクロ	品ヶ谷	シナガタニ	55	ヒノキ	40	0.19	148	28	下部に竹林が侵入し、上部には雑木が侵入。スギ・ヒノキなし
13			柘榴	ザクロ	品ヶ谷	シナガタニ	B	スギ	60	0.03	287	8	全域に雑木と竹が侵入している。スギは全く無し
14		と	柘榴	ザクロ	向井	ムカイ	57-乙	ヒノキ	65	0.3	211	63	上部区域はスギ数本残。下部区域は竹が侵入スギ・ヒノキはない
15			柘榴	ザクロ	向井	ムカイ	100	ヒノキ	80	0.01	224	2	全面に雑木と竹が侵入している。スギ・ヒノキはない
16			柘榴	ザクロ	向井	ムカイ	103	スギ	100	0.03	300	9	雑木と竹が全面に侵入しており、ヒノキが数本残っている
17		ち	柘榴	ザクロ	辰ヶ谷	タツガタニ	60	ヒノキ	85	0.06	224	13	ヒノキはまばらに残っているが、全域に雑木と竹が侵入している
18		り	柘榴	ザクロ	池谷	イケタニ	51-乙	ヒノキ	70	0.03	218	6	全面竹林化している。ヒノキは全く残っていない
19			柘榴	ザクロ	池谷	イケタニ	72	スギ	100	0.03	300	9	下部区域は竹林になっている。中央部にヒノキが残っている
20		か	山田	ヤマダ	菅井樋	スカイビツ	20	ヒノキ	39	0.16	148	23	山裾20%程度の部分ヒノキが残。上部は竹と雑木が侵入
21		か	山田	ヤマダ	菅井樋	スカイビツ	(137)	ヒノキ	39	0.16	148	23	開発地に隣接。竹と雑木が侵入している。スギ・ヒノキはなし
22			山田	ヤマダ	樋ノ口	ヒノクチ	68-2	スギ	38	0.02	223	4	
23			山田	ヤマダ	樋ノ口	ヒノクチ	69	スギ	38	0.03	223	6	【※※※境界不明のため一連のものとして報告】
24		よ	山田	ヤマダ	樋ノ口	ヒノクチ	70	スギ	38	0.03	223	6	山裾等樋ノ口6番地の一部にのみヒノキとスギが混在している
25			山田	ヤマダ	樋ノ口	ヒノクチ	67	スギ	38	0.06	223	13	上部※※※※※は竹が侵入しスギ・ヒノキはなし
26			山田	ヤマダ	樋ノ口	ヒノクチ	68-1	スギ	38	0.01	223	2	
27		い	東畑	ヒガシハタ	馬原	ウマハラ	17-8	スギ	61	0.06	293	17	開発地か。立木は全くない。畑地になっている
28			東畑	ヒガシハタ	馬原	ウマハラ	19	スギ	57	0.02	287	5	開発地か。立木は全くない。畑地になっている
29			東畑	ヒガシハタ	塚野	ツカノ	24	ヒノキ	100	0.01	224	2	竹林に変わっている。ヒノキなし。上部は開発地
30		ろ	東畑	ヒガシハタ	塚野	ツカノ	26	ヒノキ	100	0.03	224	6	竹林に変わっている。ヒノキなし。上部は開発地
31			東畑	ヒガシハタ	塚野	ツカノ	31	スギ	105	0.06	300	18	すべて開発地。木は全くない
32			東畑	ヒガシハタ	塚野	ツカノ	39	ヒノキ	95	0.06	224	13	中央部竹が侵入。上・下部は雑木とヒノキが数本残
33		は	東畑	ヒガシハタ	塚野	ツカノ	68	ヒノキ	95	0.03	224	6	竹と雑木のみ。スギ・ヒノキはなし
34			東畑	ヒガシハタ	塚野	ツカノ	70	ヒノキ	105	0.01	224	2	北端部にヒノキが何本か残っているが、あとは竹と雑木
35	007	を	南福八妻	ミナミナヤヅマ	山谷	クニナラ	56	ヒノキ	62	0.38	211	80	ヒノキ林に雑木と竹が全域に30%程度侵入している
36		ほ	北福八間	キタイナヤヅマ	国名平	クニナラ	68-69	スギ	96	0.06	300	18	竹が全面に侵入しており、スギはほとんど残っていない
37			北福八間	キタイナヤヅマ	国名平	クニナラ	70	スギ	95	0.03	300	9	竹が全面に侵入しており、スギはほとんど残っていない
38			北福八間	キタイナヤヅマ	胡麻谷	ゴマダニ	2	スギ	111	0.01	300	3	スギがポツポツ残っているが竹が全面に侵入している
39		へ	北福八間	キタイナヤヅマ	胡麻谷	ゴマダニ	25	ヒノキ	97	0.14	224	31	全面に雑木が侵入している。ヒノキはポツポツ残っている程度
40			北福八間	キタイナヤヅマ	胡麻谷	ゴマダニ	28	スギ	66	0.03	297	8	竹が全面に侵入。ポツポツ残っているスギは比較的大径木
41			北福八間	キタイナヤヅマ	胡麻谷	ゴマダニ	48	スギ	115	0.06	300	18	全面に竹が侵入している。スギは残っていない
42			北福八間	キタイナヤヅマ	鳥取	トリ	19-1	スギ	115	0.09	300	27	全面に竹が侵入している。スギは全くなし
43		と	北福八間	キタイナヤヅマ	鳥取	トリ	31	ヒノキ	90	0.01	224	2	全面に雑木と竹が侵入している。ヒノキは残っていない
44			北福八間	キタイナヤヅマ	鳥取	トリ	39	スギ	110	0.06	300	18	下層に雑木。全面にヒノキが残り、スギを皆伐しヒノキを植栽したものか
45			北福八間	キタイナヤヅマ	鳥取	トリ	42	ヒノキ	51	0.08	194	15	手前に1本だけスギが残っているがあとは全て竹林
46			北福八間	キタイナヤヅマ	鳥取	トリ	47	ヒノキ	51	0.06	194	11	全域に雑木が侵入しており、ヒノキは残っていない
47			北福八間	キタイナヤヅマ	鳥取	トリ	48	ヒノキ	51	0.07	194	13	全域に雑木が侵入しており、ヒノキは残っていない
48		ち	北福八間	キタイナヤヅマ	大塚	オオツカ	51	ヒノキ	52	0.02	194	3	全体に竹が侵入している(2割程度)が、スギがかなり残っている
49			北福八間	キタイナヤヅマ	大塚	オオツカ	53	ヒノキ	52	0.02	194	3	スギと雑木が混在している。ヒノキは無し
50		い	北福八間	キタイナヤヅマ	蛇カンボ	ジヤカンボ	16.17	スギ	55	0.08	277	22	ヒノキ林に雑木と竹が50%程度侵入している
51			北福八間	キタイナヤヅマ	吹谷	フキタニ	32	ヒノキ	80	0.02	224	4	全て竹林になっている
52		は	北福八間	キタイナヤヅマ	猪口谷	チコタニ	16	スギ	98	0.02	300	6	雑木が侵入している。スギは全くヒノキが数本残。自衛隊基地に隣接
53			北福八間	キタイナヤヅマ	猪口谷	チコタニ	49	スギ	95	0.01	300	3	雑木が侵入。ヒノキが数本だけ残。スギは無し。自衛隊基地に隣接
54		に	北福八間	キタイナヤヅマ	中ノ谷	ナカタニ	92-1	ヒノキ	90	0.12	224	26	スギ、雑木、竹がヒノキ林全域に侵入。ヒノキはほとんどない
55			北福八間	キタイナヤヅマ	中ノ谷	ナカタニ	93-1	ヒノキ	90	0.11	224	24	スギ、雑木、竹がヒノキ林全域に侵入。ヒノキはほとんどない
56			北福八間	キタイナヤヅマ	唐子谷	カラコタニ	80	スギ	101	0.01	300	3	上部はスギの大径木が数本。雑木が侵入。下部は竹が侵入。小径のスギが残
57		ほ	北福八間	キタイナヤヅマ	唐子谷	カラコタニ	95	スギ	73	0.15	300	45	全面に雑木と竹が侵入している。スギは残っていない
58			北福八間	キタイナヤヅマ	唐子谷	カラコタニ	98	スギ	62	0.05	293	14	全面に雑木が侵入している。スギ、ヒノキはなし
59		へ	北福八間	キタイナヤヅマ	城山	シロヤマ	1	ヒノキ	54	0.08	194	15	雑木の中にヒノキが点在。白線区域内に比較的多くある
60		り	下粕	シモコマ	大福寺	タイフクジ	79-80	ヒノキ	70	0.06	218	13	全面竹林になっている。ヒノキは全くない
61	013	ち	菱田	ヒンダ	平谷	ヒラタニ	A	ヒノキ	28	1.73	100	174	周囲がゴルフ場として開発されており、残地森林としてヒノキが残っている
人工林調査箇所計[6箇所]										6.35		1,197	

※人工林調査箇所は精華町人工林6.50haの内、換地処分箇所1箇所0.07haと公園及び森林計画図に記載が無く位置が特定出来ない6箇所0.24haを除いた、計60箇所6.19haに菅井樋地番20の0.16haの林分が地番137の0.16haに存在するのかどうかの調査を加えた、合計61箇所6.35haである。

調査元：京都府森林組合連合会

3 令和2年度精華町人工林詳細調査結果

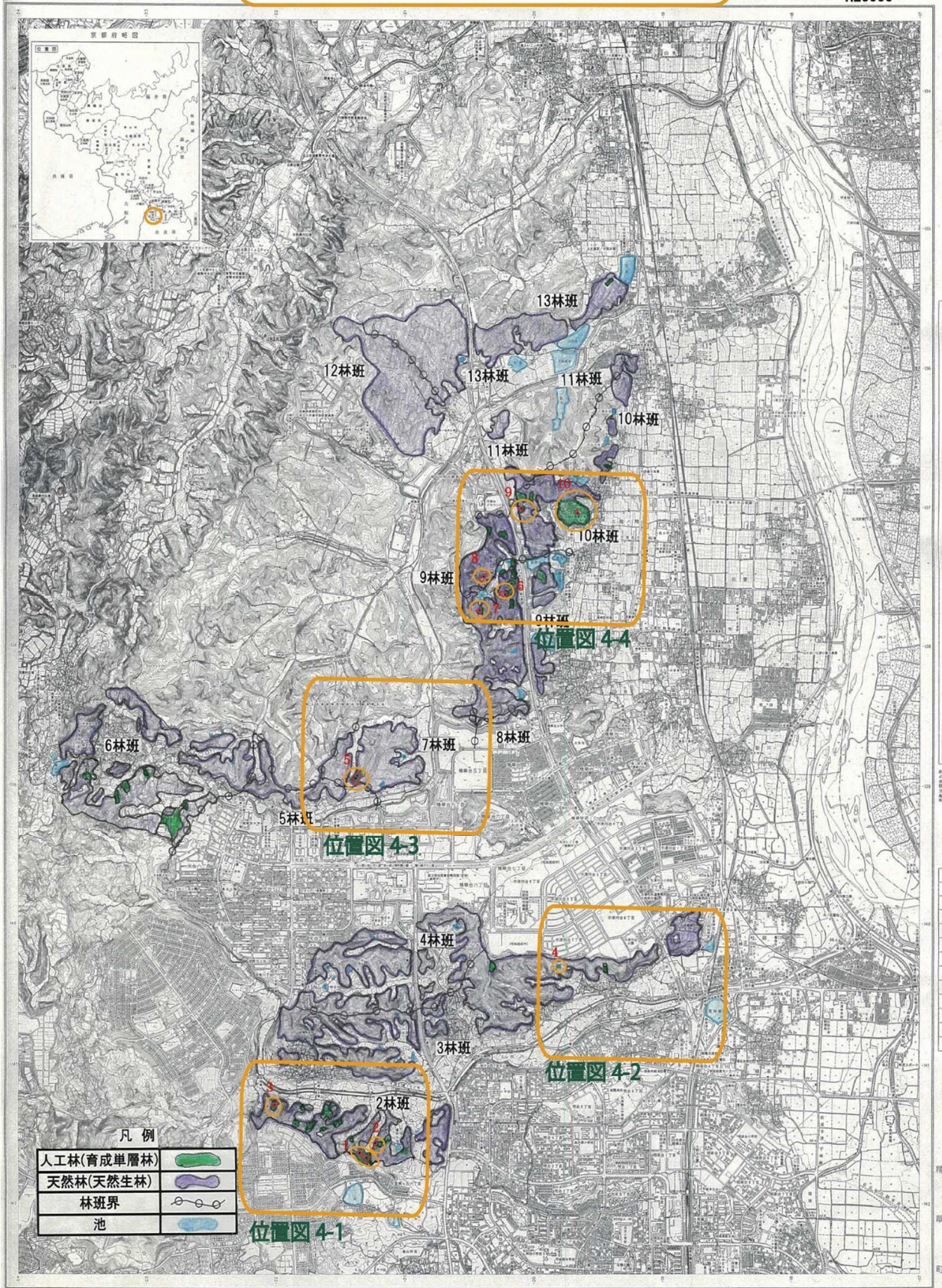
調査結果を総括すると、各箇所ともスギ・ヒノキの生育面積が小面積であり、森林作業道なども無く、間伐など、保育作業を個人で行う上で、作業道開設など多大な経費がかかり、林業経営は困難である。また、人工林が広域に分散しているため、共同で作業道開設や保育作業を行う事も困難であると判断できる。

調査した10箇所の内、7箇所においては、保育作業が不十分で、タケ、広葉樹が侵入し、要間伐林分になっているが、生育するスギ・ヒノキは良好な樹形のものも少なくない。

令和2年度 精華町人工林詳細調査結果								
【調査番号】 座標値	林班	小班	大字	小字	森林簿 面積ha	スギ・ ヒノキ 生育区 域面積 ha	Ry (収量比数) ↓ 下限 本数率	備 考 【竹侵入状況、スギ・ヒノキ生育箇所の林況等、Ry(収量比数)】
【1-1】 34°43'34.90″ 135°45'50.12″	002	に	柘榴	中七条	0.52	0.27	0.86 ↓ 0.66 45%	・【1-1】タケが約10%侵入、【1-2】タケが約20%侵入している。 ・手入れが不十分であるが、生育するスギ、ヒノキは、良好な樹形のものも多く、健全な森林を育成するには、間伐等の森林施業、タケの除伐が必要である。 ・Ry(収量比数)は0.86→0.20下げ→0.66、間伐する場合の本数率は45%。
【1-2】 34°43'32.69″ 135°45'52.00″								
【2】 34°43'35.86″ 135°45'55.65″			柘榴	中七条	0.09	0.06	0.66 ↓ 0.55 25%	・コナラ等広葉樹との混交林となっている。生育場所によってヒノキやスギの密度に濃淡がある。また、調査プロットにはタケの侵入は見られないが、生育区域にはタケの侵入が見られる箇所があり、今後、植栽木の被圧が予想される。タケ、広葉樹の除伐が必要である。 ・Ry(収量比数)は0.66→0.20下げ→0.55、間伐する場合の本数率は45%
【3】 34°43'45.94″ 135°45'24.13″		り	柘榴	池谷	0.03	0.06	0.54	・タケが約50%侵入している。スギの樹高がタケよりも高いため、枯損の恐れは低いが、林床には下層植生が見られず、不健全な状況にある。タケの除伐が必要である。 ・Ry(収量比数)は0.54で、間伐の開始時期にはなっていない。
【4】 34° 44'16.36″ 135° 46'48.92″	003	か	山田	菅井樋	0.16	—	—	現況、竹林となっており、スギ、ヒノキ等の生育は見られない。
【5-1】 34°45'01.28″ 135°45'48.73″	007	を	南稲 八妻	口谷	0.38	0.32	0.70 ↓ 0.55 35%	・【5-1】タケの侵入は見られないが、【5-2】ではタケが約50%侵入している。 ・手入れが不十分であるが、生育するヒノキは、良好な樹形のものや太いものも多く、健全な森林を育成するには、間伐等の森林施業、タケの除伐が必要である。 ・Ry(収量比数)は0.70→0.15下げ→0.55、間伐場合の本数率は35%
【5-2】 34°43'32.69″ 135°45'52.00″								
【6】 34°45'46.78″ 135°46'34.96″	009	と	北稲 八間	鳥取	0.06	0.14	0.90 ↓ 0.70 45%	・形状の良いヒノキが多く、生育密度にばらつきは少ない。タケの侵入は見られない。今後、健全な森林を育成するには、間伐等の森林施業が必要である。 ・Ry(収量比数)は0.90→0.20下げ→0.70、間伐場合の本数率は45%
【7】 34°45'38.86″ 135°46'25.46″		ち	北稲 八間	大塚	0.02	0.18	0.85 ↓ 0.65 45%	・人工林の大半がヒノキであるが、一部スギが生育している。タケの侵入は見られない。手入れが不十分であるが、生育するスギ、ヒノキは、良好な樹形のものも多く、健全な森林を育成するには、間伐等の森林施業が必要である。 ・Ry(収量比数)は0.85→0.20下げ→0.65、間伐場合の本数率は45%
【8】 34°45'48.27″ 135°46'25.99″	010	い	北稲 八間	蛇 カンボ	0.08	0.24	0.51	・コナラ等広葉樹との混交林となっている。生育場所によってヒノキの密度に濃淡がある。タケの侵入は見られない。広葉樹の除伐が必要である。 ・Ry(収量比数)は0.51で、間伐の開始時期にはなっていない。
【9】 34°46'02.89″ 135°46'38.49″		ほ	北稲 八間	唐子谷	0.01	0.09	0.75 ↓ 0.55 45%	・タケが約30%侵入している。スギの樹高がタケよりも高いため、枯損の恐れは低いが、林床には下層植生が見られず、不健全な状況にある。スギの太さにばらつきが大きい。健全な森林を育成するには、間伐等の森林施業、タケの除伐が必要である。 ・Ry(収量比数)は0.75→0.20下げ→0.55、間伐場合の本数率は45%
【10】 34°46'02.37″ 135°46'57.11″		へ	北稲 八間	城山	0.08	0.10	0.73 ↓ 0.55 40%	・人工林の大半がヒノキであるが、一部スギが生育している。神社裏山で下層植生は除去され、見通しが良い。タケの侵入は見られない。健全な森林を育成するには、間伐等の森林施業が必要である。 ・Ry(収量比数)は0.73→0.18下げ→0.55、間伐場合の本数率は40%
精華町人工林詳細調査箇所計					0.91	1.19	—	Ry(収量比数)の計算 ・上層木の平均樹高は[上層木樹高の総和÷上層木本数]により0.5mを単位とし1m以下1位を2捨3入(7捨8入)して算出する。 ・Ryは林分密度管理図から算出し、0.65以上を間伐開始の目安とし、下げ幅は0.20を限度とし、Ryの下限は0.55を目安とする。 ・下げ幅に対する本数率は0.05→15%、0.10→25%、0.15→35%、0.20→45%となっている。

調査元：京都府森林組合連合会

精華町 人工林詳細調査箇所位置図



平成14年3月作成

1:25,000

4 行政データでみる精華町の森の姿 (平成30年度京都府立大学地域貢献型特別研究 ACTR 成果)

平成30年度 京都府立大学 地域貢献型特別研究(府大 ACTR)成果報告会

行政データでみる精華町の森の姿

～ 里山整備に向けた関連基盤情報の収集と解析 ～

府大 ACTR 研究代表 田中和博

○日時／ 3月14日(木曜日)午後2時～3時半

○場所／ 精華町役場 町図書館(1階)集会室

【研究の背景】

① 放置森林の現状

- ・マツ枯れ・ナラ枯れによる森林被害
- ・竹林の無秩序な拡大
- ・イノシシ等による獣害被害
- ・気候変動に伴う台風の強大化および集中豪雨の多発による山地災害の懸念

② 里山管理の必要性

- ・精華町は、学研都市や住宅地と里山が隣接する地域
- ・残された里山をどのように整備、管理し、「人と自然との共生」を図るのか？
- ・特に、無秩序に拡大している竹林の対策は？

③ 森林環境譲与税の導入

- ・市町村による森林の適切管理が求められる中で、精華町の対応は？
- ・精華町における里山保全の指針は？

【研究の目的】

① 精華町の里山整備に向けた関連基盤情報の収集と解析

- ・国(国交省、環境省)や京都府が保有している関連基盤情報の収集と解析
- ・リモートセンシング画像の解析と現地予備調査

② 関連する活動団体からのヒアリングによる課題抽出

- ・様々な立場からの、ものの見方
- ・活動を通して得られた知見の共有化

③ 収集・解析した里山情報の共有化

- ・Stroly マップによる情報の共有化

④ 精華町の里山・竹林整備に向けた方向性の提言

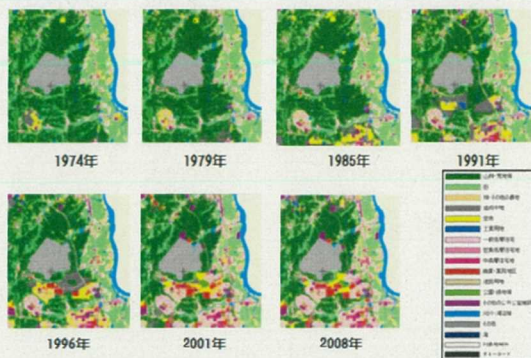
- ・平成31年度の活動に向けた提言

【行政データの活用】 精華町の里山整備に向けた関連基盤情報の収集と解析

① 地理院地図で見る
精華町の土地利用の変遷

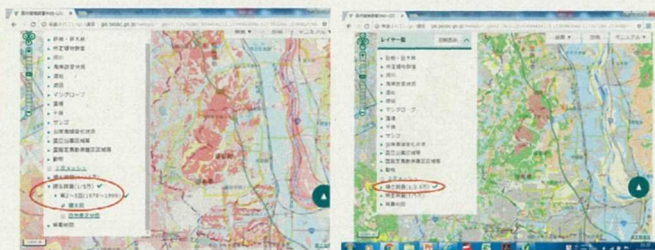
1974年～2008年までの34年間

1974年～2008年までの土地利用の変化



② 環境省のWebGISで見る
精華町の植生の変遷

1983年～2001年までの18年間



エコリス地図タイルの陰影起伏図

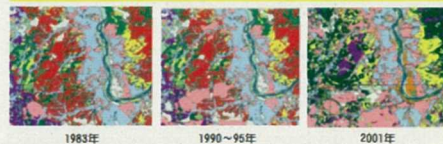
第5回植生図
1990～95年

第6～7回植生図
2001年



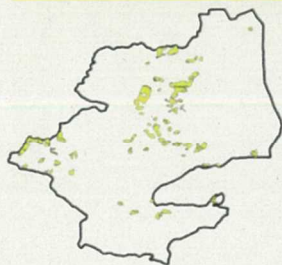
竹林が急速に拡大

G I S（地理情報システム）による解析

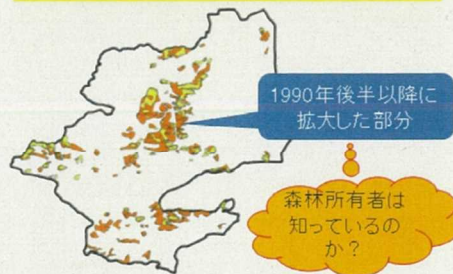


- ◆ 1980年代 アカマツ（赤色）が多かった。
- ◆ 1990年代 学研都市の開発が始まる。市街地（ピンク）
- ◆ 1990年代後半 ===== マツ枯れ =====
- ◆ 2000年代 → モチツツジ - アカマツ群集（紫色）
- ◆ 2010年代 → 竹林（黄色）の拡大
- ◇ 2010年代 ???

1990～95年における竹林の分布



2001年における竹林の分布と拡大

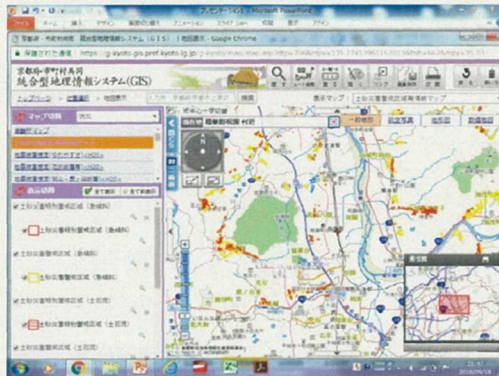


【防災データの活用】

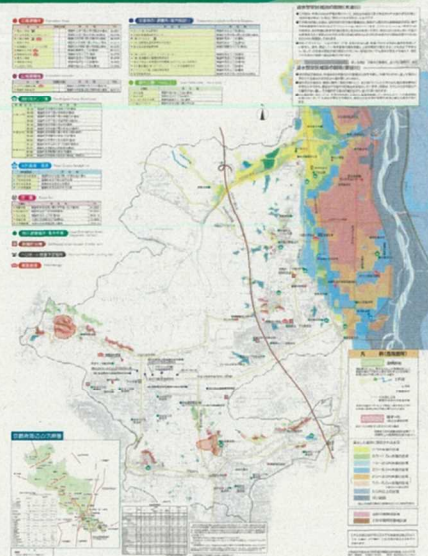
精華町

土砂災害警戒区域

京都府・市町村共同
統合型地理情報システム (GIS)



精華町防災マップ



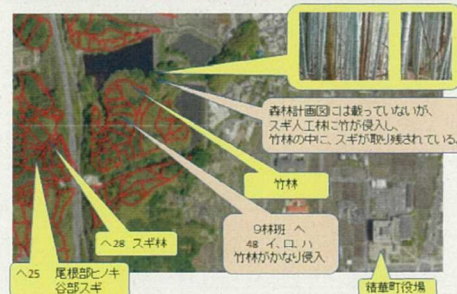
【人工林の現状】 現地確認調査／2018年12月27日(木)

10林班 リ 79&80



- ◆ 写真に黄色く移っていく所は、すべて、竹林。
- ◆ 昔はマツ林だった。薪割は1車にしていた。
- ◆ マツ枯れ後、畑として利用しなくなった以降、竹が侵入、繁茂。

9林班 胡麻谷池 南東のスギ人工林



2林班 い



- ◆ 精華町の民有人工林は、6.5ha
実態は、スギやヒノキの人工林の中に
竹林が侵入しており、
見た目は、竹林になってしまっている。
- ◆ 人工林だけでなく、
里山の広葉樹林も
竹林に侵略されている！！

【ヒアリングによる課題抽出】活動を通して得られた知見の共有化

① せいか里山の会／ 2018. 07. 12

- ・7月豪雨では、東畑も鳥谷池がもしなければ大惨事だったと思う。池の水位が高かった。
- ・昔は嶽山で遊んだ。今は想像できないほど荒れた。松が竹へ。種々の植生も姿を消した。
- ・昔は山から風景を見渡すことが出来たが、竹林拡大により、見られなくなった。
- ・耕作放棄から山裾地帯の整備がされず、イノシシの範囲拡大へつながっていると感じる。
- ・弾薬庫周辺だけでも森林として保全活動される設定がされればと思う。

② 嶽山プロジェクト／ 2018. 07. 18

- ・精華町にも冬には渡り鳥が100～150種類ほど来る。記念公園や府大附属農場でよく見る。
- ・精華町周辺には猛禽類が10種類以上(オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ、ノスリなど)
- ・キンラン(京都府の絶滅危惧種：3年前にごっそり切られたが今は看板設置して保全)
- ・東畑集会所近くにはホタルの自生地もあるが取りに来る人もいるため、公表は要注意

③ 北稲八間区／ 2018. 08. 01

- ・里山保全活動は、金額も年100万円程度では、長期、継続的な活動でもできることは少ない。
- ・北稲八間の自治会は水と農の交付金を受けて農道、水路、ため池等の整備を15年以上おこなっている。
- ・獣害対策として自然界に柵等の人工物は置くべきでない。いずれ朽ちて、撤去費用が大きな問題となる。
- ・モノよりもヒトに対する補助が重要。猟友会のメンバーを増やし、地域活動に溶け込んでもらえば。
- ・定年退職後の人々に地域を担うリーダーになってももらいたい。

④ 精華町危機管理室／ 2018. 09. 18

- ・乾谷金堀での地すべりについて(地震後1週間)6/25 L=50m W=100m h=20m
地震との関連もあいまいなところがある。放置竹林による根の層が滑ったのではとも言われている。
- ・地すべりのあった乾谷金堀は皆所有者判明している。地目は雑種地。
- ・人工林の地権者把握については、名前は分かるが土地に住んでいるかは分からない。
- ・福知山市では地域でおこなう防災活動に対して市町村で補助をおこなっている。
- ・精華町では「経営」にのる林はない。作成する里山保全指針は「条例」でないと根拠として弱い。

⑤ 武内神社／ 2018. 10. 12

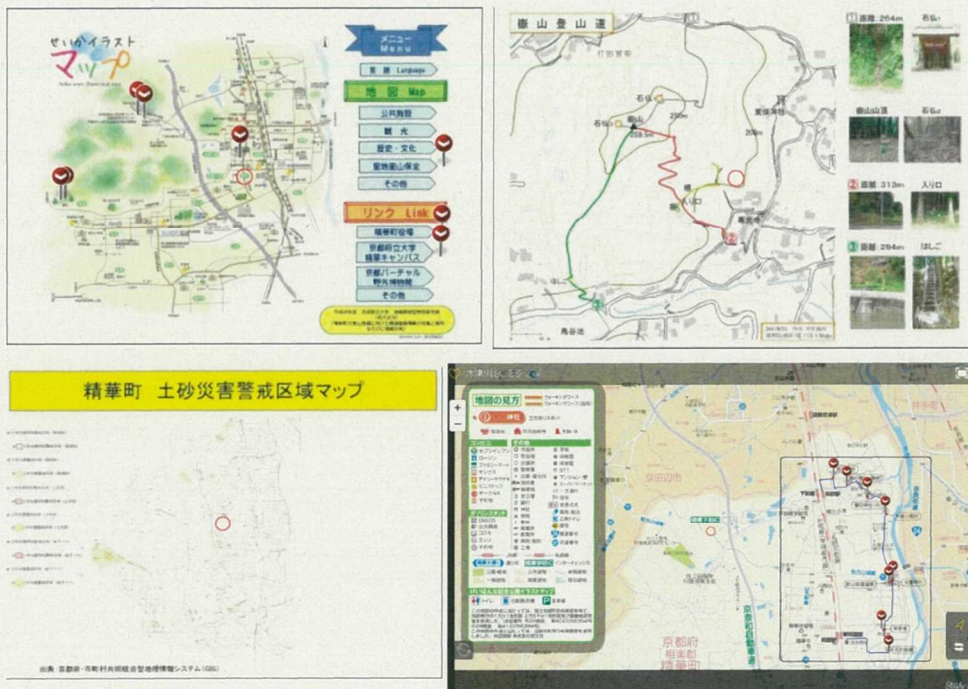
- ・北稲八間地区では、1集落1村、1社1寺の歴史が1317年から続いており、コミュニティの結束が強い。
- ・雅楽、神楽を活用して年1回舞巫女募集でも30名集まる。巫女が親世代になっても次世代が育っている。
- ・宮山の展望台の見晴らしを再生したい。駅チカ、観光農園も有ることからニーズは存在している。
- ・森の文化的景観を守り、古き良き文化(山で弁当を食べる感覚 コミュニティの関わり合い)の発展へ。

⑥ ふるさと案内人／ 2018. 11. 19

- ・案内人の活動の代表的なルートは精華町のまっぶるにも掲載されている。
- ・どの場所にもストーリーはある。ルートの総数は70コースは有ると思う。
- ・里山、嶽山、竹林(北稲)、神社の森なども通る。北稲は武内神社とも連携してルート整備している。
- ・整備されない里道を整備も行う。(里山奥口谷湿地～自衛隊南門まで木道おきたい)

【里山情報の共有化】Stroly マップによる情報の共有化

- ◆ Stroly マップは、精華町発のベンチャー企業である **Stroly** 社が開発したアプリであって、手書きの地図やランドマークの属性情報を、**Stroly** 社のサーバーへアップロードして位置座標を付加すると、無料で登録することができ、URL が付与されるので、その URL をスマホで閲覧すると、画面上に手書きの地図と自分の現在地が表示され、ランドマークをクリックすると、ランドマークの説明文や写真等が現れるという仕組みです。



【今後の取り組み】精華町の里山・竹林整備に向けた提言

- ◆ 現地モニタリング調査の継続と拡充
- ◆ 森林ゾーニングとゾーニング別対応策
 - ・生物多様性の保全、特に、口谷の湿地
 - ・外来種対策
 - ・竹林拡大の防止
- ◆ 環境保全活動の推進と拠点作り
- ◆ 里山環境情報の整備と共有化
- ◆ 里山（木材）・竹林（竹材）の有効利用

精華町の里山保全について考えよう！！

精華町森林ゾーニング(案)



里山を保全し、その恵みと文化を次世代に継承しましょう！！